

第4学年国語科学習指導案

1 単元名 場面をくらべて読もう
「一つの花」(今西 祐行作)

2 単元目標

叙述から想像を膨らませて読み、読み取ったことを進んで話し合おうとする。(関心)
場面の情景や登場人物の様子や心情を叙述に即して想像しながら読むことができる。(読むこと)
課題や主題について自分の考えをまとめ、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気づき、考えを深めることができる。(読むこと)

3 『ひびき合うこどもたち』をめざすための指導の工夫

研究課題...自ら進んで学習に関わろうとする意欲や態度の育成
手立て...子どもの知的好奇心をもとに、子どもと教師で行う授業作り

(1) 単元と指導について

教材について

本単元は、学習指導要領「C読むこと」の目標「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度をそだてる。」を受けて設定した。「C読むこと」の内容「ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと」「エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人ひとりの考え方について違いのあることに気付くこと」を指導するのに適した単元である。

本教材は、戦争という大きな流れの中で生きた人々の悲しみや愛情を描いた物語である。戦争が激しくなり食べるものも乏しく、体の弱い父親さえも戦地に向かわなければならなくなった戦争末期と、終戦から十年がたち、貧しいながらもコスモスに囲まれた小屋で、母と娘が幸せに暮らしている二つの場面で構成されている。恐ろしい戦争の力を持ってしても、親が子を思う心や美しいものを尊ぶ人間らしい心を奪うことはできない。戦争への嫌悪や平和の願いと共に、どんな状況下であっても変わらない家族の愛情(子を思う親の思い)や悲しみを乗り越えて生き続ける人間の強さが三人称客観視点で語られている。そして、戦争の中にあっても強い愛やつながりをもって精一杯生きようとする家族の姿が主題として描かれている。題名の「一つの花」は、父の願いであり、「美しいもの・愛・幸せ・喜び・命・平和」等の象徴である。本教材では、戦争の悲惨さを訴える事よりもその中で懸命に生きた人々の思いや願いを考えることに焦点をあてたい。また、文章の構造のなどにも目をむけさせたい。

指導について

【子どもと共に「授業を作る」「単元を作る」ことについて】

身に付けたい力と読みの方法

・物語の場面を分け、内容の大体を把握する力...場面を分けるときの観点をもたせる。物語の基本構造を理解させる。

1次で場面分けを行う。場面は、大きく分けると戦争中と戦争後の二つに分けることができる。時間・場所・登場人物を観点にし、出来事に着目すると五つの場面に分けることができる。場面分けを通して、時、場所を表す言葉を見つけたり、誰の会話文なのかを理解したりできる。個の読みをもとに何を観点にして分けたのか、さらに場面の話の内容も考えさせながら、全体で話し合わせていきたい。それにより、場面の展開が分かり、話の大体の内容も把握できると考える。また、物語の基本的な構造については、冒頭・展開・山場・結末等の用語を教え場面が分けられることを理解させていきたい。

・場面の情景や登場人物の様子や心情を叙述を基に想像して読む力・主題を考える力...物語全体を通した課題の設定をする。

子どもたちがこの教材を読みたくなるような、考えたくなるような読みの方法を思案した。前半・後半場面を通して、「ゆみ子は、幸せか」という課題で、作品全体を読ませていきたいと考える。前半場面では、子どもたちは、戦争の状況下ということもあり、すぐに「幸せではない」と答えるであろう。その理

由を本文からを見つけるために読む。すなわち、課題を解決するために、目的を持って読むことができる。世の中の様子、食べ物、父親の出征を理由に不幸せであると考えらるであろう。情景だけでなく、父母の行動や会話文からゆみ子への父母の思い（両親の愛情）や父親のゆみ子に対する願いなども考えさせていきたい。後半場面では、戦争後のゆみ子を取り巻く状況の変化やコスモスの花を視点に前半場面と比べながら考えさせていく。平和によってもたらされた物質的な豊かさ、戦争で奪われた父親、忙しく働く母親、母親の変わらぬ優しさ、コスモスが咲き乱れる中に秘められた父母の思い等、叙述から想像させながら読めるとよい。また、前半場面で捉えた父親の願いがかなっているかを考えさせながら読ませていきたい。話し合いを通して、「幸せ」だけれど「不幸せ」な部分もあり、まるっきり「幸せ」とはいえないと考える児童もいるであろう。答えを一つに絞らず、叙述を基に理由を考えられたことを評価していきたい。教師から提示した課題であっても子どもたちが真剣に考え、自分の考えを伝えたいような場面が見られれば、子どもと共に授業を作ると言えるのではないかと考える。

第3次においては、この物語を通して作者が伝えたかったこと、作品が自分に最も強く語りかけてきたことを考えさせていきたい。第2次の課題を通して読み取ってきたことが主題を考える力につながっていく。主題と主題に関わる大事な一文を書き抜かせ、ポスター作りを行っていきたい。ポスターを作るかどうか、まとめ方については、子どもたちと相談しながら進めていきたい。自分の考える主題と友達の考える主題の共通点や相違点から、読みの交流をし、自分の考えを深めさせていきたい。

【ひびき合うための話し合いの仕方について】

ペア対話

ペア対話は、隣席の友達と2人チームで行う。このペア対話を通して、クラス全員の児童に対して、「話す」という活動と、自分の考えを仲間に伝え、聞いてもらうという体験が保証される。全体で交流する前に取り入れることにより、自分の考えに自信を持ったり、クラスの皆に伝えたいという意欲につながったりすると考える。また、全体の交流場面でも話し合いの内容によっては、適宜取り入れることによって、思考が活性化される。

自分と同じかどうかを意識させながら聞くようにし、友達の考えに反応したり、感想を言ったりできるようにしたい。友達の良い考えは、自分の中にも取り入れていくようにさせる。

全体交流

第2次の話し合いでは、課題に対しての根拠を文章中からみつけ、理由を述べていく。同じ文章を根拠にしなが、捉え方の違いが生まれるであろう。共通点・相違点を考えながら聞けるようにしていきたい。同じ考えでも、自分なりの言葉で表現できることを大事にしたい。発言の仕方としては、まずは、「～というところから～と思いました。」と叙述を基に自分の考えが言えるようにしていきたい。そして、「～さんと同じで」「それについて」「似ている」「付け加えて」「～さんと違って」等、関連した発言ができるが良い。

読みを交流し友達と関わる中で、まずは、個の読みが表出でき、聴き合う姿が見られると良い。友達の考えを受け入れたり、新たな気付きを持ったりする姿や対立する考えの中で、考えがまとまっていく姿を「ひびきあう姿」と考える。また、第2次では、全体交流の後に本時の学習の振り返りとして、自分の考えを書く。話し合いを通して、自分の読みが新たに作られることで、個の読みが高まったと捉えたい。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと
・叙述から想像を膨らませて読み、読み取ったことを進んで話し合おうとしている。	・場面の情景や登場人物の様子や心情を叙述に即して想像しながら読もうとしている。 ・課題や主題について自分の考えをまとめ、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気づき、考えを深めようとしている。

5 単元指導計画と評価計画

次	時	ねらいと学習活動	評価基準と評価方法
一	1 2	教材に興味を持ち、学習の見通しを持つことができる。	【関】・題名に興味を持ち、教材文をよもうとしている。(発言・観察)

	3	<ul style="list-style-type: none"> ・題名読み。全文通読。物語の時代背景について知る。 ・登場人物 時、場所の設定をおさえ、場面を分ける。 ・音読練習。新出漢字や語句の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話に興味を持ち、感想を持っている。(発言・観察) 【読】・登場人物、あらすじ、場面設定、誰の会話文かがわかる。(ノート・発言・観察)
二	4 5 6 7 8	<p>戦争中・戦争後の場面において、場面の情景や登場人物の様子や心情やなどを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争中のゆみ子をとりにまく状況を読み取る。 ・「戦争中のゆみ子は、幸せか」を叙述を根拠に読み取る。 ・戦争後の「十年後のゆみ子は、幸せか」を前半の場面と比べながら叙述を根拠に読み取る。<本時> 	<ul style="list-style-type: none"> 【関】読み取った内容を進んで伝えようとしている。(観察) 【話・聞】自分の考えを分かり易く話している。友達の考えを自分の考えと比べながら聞いている。(観察・発言) 【読】課題について、登場人物の言動、世の中の様子、食べ物、コスモスの花を視点にし、語句や文章を根拠に想像を膨らませながら読んでいる。(ワークシート・発言・観察)
三	9 10	<p>作品に対する自分の考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を通して作者が伝えたかったこと(主題)についてポスターを作り、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【読】作者の思いや願いについて、自分なりの考えを持ち、友達の考えとくらべている。(ワークシート・発言) 【書】ポスター作りを通して、主題と主題に関わる一文を書き抜き、まとめている。(ポスター)
四	11 12	<p>同一作者の作品や戦争を題材にした作品を読み、紹介カードに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【関】同一作者の作品や戦争を題材にした作品を進んで読もうとしている。(観察) 【読】登場人物、中心人物、場面設定、登場人物の関係等、読みの観点に沿って読んでいる。(ワークシート) 作者の思いや願いについて考え、作品についての感想を持てる。(紹介カード)

6 本時について

(1) 本時目標

戦争中と十年後を比べ、くらしや両親の思いを叙述に即して想像して読み、個々の感じ取った内容を交流することを通して、十年後のゆみ子の状況を読み取ることができる。

(2) 本時展開

学習活動	指導上の留意点(評価)
1. 前時までの学習を想起する 2. 学習課題について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 十年後のゆみ子は、幸せだろうか。 </div> 3. 本時の学習場面を音読する。 4. 課題に対して自分の考えをまとめる。 5. 考えを交流する。 【幸せ】 ・10年の年月が過ぎて、世の中が平和になっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・コスモスの花でいっぱい包まれている。一つだけではなく、いっぱいである。 ・お肉とお魚どっちがいいの。戦争中は、食べるものがなくて、ゆみ子はいつもお腹をすかせていたのに、肉や魚が食べられるようになった。ゆみ子は、「一つだけ」と言わずに選べるような豊かなくらしになった。 ・買い物かごをさげて。戦争中は、配給だったけれど、買 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を想起しやすくするために掲示をしておく。 ・前半場面と変わったことや登場人物の行動や会話文に着目させて、読むようにさせる。 ・全体で音読するが、自分の読み方で音読するようにさせる。 ・サイドラインを引いて、書き込みしたことや新たに考えたことを基に自分の考えをまとめる。 ・ペアで交流し、自分の考えを表現させる。聞き手は、反応したり感想を言ったりできるようにする。ペアの友達の考えで、なるほどと思った内容は、自分の考えに付け足していくようにする。 ・全体で交流をする。

<p>い物に行くことができるようになって、一つだけの食べ物ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コスモスの花でいっぱいに包まれている。お父さんは、いないけど、お父さんが大事にしてほしいと思った気持ちが、ゆみ子に伝わり、コスモスと一緒にお父さんの気持ちが生きている。 ・ スキップしながら。ゆみ子は、楽しそう。喜びを持って生きている。 <p>【不幸せ】・ ゆみ子はお父さんの顔を覚えていません。お父さんが戦争から帰ってこなくて、いないのでかわいそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミシンの音が、たえず。ミシンの音がまたいそがしく。お母さんは、お父さんがいないのでいそがしく働いている。 ・ とんとんぶきの小さな家。そまつな家でくらししているので、生活は、大変だと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>5 . 学習の振り返りをする。</p> <p>6 . 次時の学習内容を知らせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分の考えを伝えようとしている。友達との共通点や相違点に気付くことができる。(話・聞)</p> <p>前半場面との違いを見つけ、叙述を基に理由を考えようとしている。(読む)</p> <p>両親のゆみ子への思いを関わらせながら理由を考えている。(読む)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物質的な豊かさだけでなく、前半場面の父親の願いを思い出させ、ゆみ子がどんな子に育っているかを考えさせる。 ・ 答えを一つに絞らず、叙述を基に理由を考えられたこと評価していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に対する自分の考えをまとめさせる。振り返りカードに記入する。 ・ 主題を考えていくことを知らせる。
--	---

(3) 本時の具体的な評価

	十分に満足できる	おおむね満足できる	努力を要する場合の手立て
読む	戦争中と十年後を比べ、くらしや両親の思いを叙述に即して想像して読み、十年後のゆみ子の様子を読み取ることができる。	戦争中と十年後を比べ、くらしを叙述に即して想像して読み、十年後のゆみ子の様子を読み取ることができる。	交流で出された意見を板書から選んで、ゆみこの様子をまとめられるようにする。

(4) 本時の視点

- ・ 児童が意欲を持って物語文を読むために、課題の設定は、有効であったか。
- ・ 個の読みを表出し、友達の考えを認めながら話し合う姿が見られたか。
- ・ 戦争中と十年後を比べ、くらしや両親の思いを叙述に即して想像して読み、個々の感じ取った内容を交流することを通して、十年後のゆみ子の様子を読み取ることができたか。

7 実践を終えて

- ・ 本時では、「ゆみ子は、幸せである。」と考える児童がほとんどであった。叙述に即して、幸せと考えた理由を述べることでお互いの考えを認めたり、深めたりする様子が見られた。児童は、前半の場面と比べながら、物質的な幸せだけでなく、両親の思いにも戻りながら考えることができた。また、「ゆみ子は、お父さんの顔を覚えていません。」の叙述において、「不幸せである。」と考えた発言から、意見の対立が見られ、活発な話し合いになった。個々の考えを表出し、交流することを通して、「ひびき合う」姿が見られた。話し合いの後に、自分の考えをまとめたが、友達の考えを取り入れながらさらに自分の考えを作ることができた。児童が意欲を持って物語文を読むために、課題の設定は、適切であったと言える。
- ・ 第3次では、前時までの学習をもとに主題を考えさせた。この物語を通して作者が伝えたかったこと、作品が自分に最も強く語りかけてきたことを考えさせたが、主題をずばり一言で書き表すことは、難しかったようだ。主題に関わる一文をもとに、どうしてそのように考えたのかを交流することにより、自分の考えをはっきりさせることができた。学習のまとめとして、登場人物に手紙を書きたい意向が出てきたので、行った。ほとんどの児童が、ゆみこへと題して書きまとめた。主題を捉えさせるための課題設定でもあったが、児童にとっては、主題を読み取ることより、2次でゆみ子に寄り添って読んできたので、より身近になったゆみ子に手紙を書くというのは、子どもたちの思考から言うと自然な流れであったように思う。